

輝石

～追～

洗足学園高等学校 高校2年 学年通信 2020.06.15 発行
(活動メモより最終号)

オンライン授業日の放課後に「問い」続けられた日々。35の「問い」を考え続けた日々。232人の生徒がそれぞれの向き合い方をしたようで、まさに「自律」の実践の場でありました。嬉しかったのは、「問い」を一緒に考え、夕食時などの話題にしていたご家庭が少なからずいらしたことです。ご協力に心より感謝申し上げます。学年団教員にとっても、休校期間中、実際に会えないクラス生徒の心のうちを知る機会になっただけでなく、出される「問い」を通して、教員同士が互いの持ち味や個性を知ることとなり、学年スタート前の団結が一層強まりました。

書き続けた人達、読み続けてくださった方々、実は七転八倒しながら「問い」を出し続けた学年団、すべての人に感謝して、この活動を終わります。

6月3日(水) 『この3か月間で得たことは何ですか』 高2学年団の先生方からの問い

高2A O.H

長いようで短いような、不便なようで便利なような休校期間が今日で終わる。

始まりは最悪だった。楽しみにしていたSオケの定演はなくなり、春練もなく、友達にも会えない。気分転換に買い物にすらいけない。いっそのこと今までしたことのないくらい思いきりだらけた生活をしてやろう、そう思っていたらあっという間に3月は終わってしまった。朝は昼前に起きて夜中に寝るという不規則極まりない生活も、そこまで悪くはなかった。4月になってオンライン授業が始まると、はじめはしっかり起きていたものの朝礼の10分前に慌てて準備する、なんてこともあり、宿題も少ないためだらけてしまうことが多かった。活動メモをはじめは張り切っていたものの段々と面倒だという気持ちが強くなっていき、てきとうに済ませてしまうことも増えた。でも今はそのだらけてしまっていた3月、4月の生活を無駄な時間だったと後悔はしていない。なんだかんだ楽しかったし、こんなにゆっくり心身を休められる期間はもう今後来ないと思うから、この状況に慣れるための準備期間だったと考えることにしている。5月になってからはこの形式の授業にもなれて、色々と新しいことを試してみたり、自分のことを見つめ直したりと、充実した期間になった。勉強をしようと思い立ったのに無理に夜までやって次の日起きれなかったり、毎日この問題集を解こう、と決めたのに2日しか続かなかったりと、成功したことのほうが少ないような気もするが、たくさん挑戦してたくさん失敗して、充分有意義

に過ごせたと思う。中でも自分のことをよく知れたというのは大きな収穫だった。

私は将来の夢は何かと聞かれると迷わず「翻訳家」と答えていてこれは 10 歳のときから 7 年間、一度も変わっていない。ただ、時々ふと「それは私が本当にやりたいことなのか」「どうして私はこの夢にこんなに固執しているんだろう」と思うことがあった。でもゆっくり考え時間もなく、もし考えてみてこれが本当に私のしたいことではないんだと思ってしまったら、と想像すると怖くてできなかった。ところがその問いに答えてくれたのは意外にもこの活動メモだった。こんなことを言ったら大げさだと笑われるかもしれないが、私はこの活動メモを通して自分のことを知ることができ、そしてさらにそれが勉強のモチベーションにも繋がった。私が気づいたことは 2 つ。一つは、自分は文章を書くのが好きだということ。うすうす気づいてはいたが、毎日活動メモを書き続けたこの 2 ヶ月間で改めてそれを実感した。私は語彙力がある方でもなければ独創的な表現を使える方でもない。でも、自分の思っていることを言葉にして、さらにそれを人に読んでもらえるということに喜びを感じた。今までは自分の気持ちや考えを文章にして人に読んでもらえる機会はなかなか無かったが、実際に毎日それをするので何かを書くときのうまい言葉が見つからないもどかしさ、これだ！と思った表現が思いついたときのわくわく感、そしてそれを誰かが読んでくれるという喜びというような、文章を書く上で感じるものを心から楽しんでいる自分に気づいた。これは私にとっては大きな発見で、これから先問いが出されないのが少しさみしいような気さえしている。もう一つは、自分の興味関心・知識に思っていた以上に偏りがあるということ。問いは毎日違う先生から出されるのでテーマも日によって全然違い、必然的にたくさん書けるものと少ししか書けないものとで大きく差が出てしまった。哲学的な内容や自分の人生観については時間を忘れてしまうほど没頭して書けるのだが、例えば社会問題の話や政治の話になると全く書けなくなってしまう。今まで充分に関心を持っていなかったため知識が乏しく考えも浅く、そのような話題に関しては苦手意識もある。普段からもっと社会のことに興味を持って知識を蓄えておかなければならないと感じたし、コロナウィルスの流行を通して、自分が社会の一員であり、政治は他人事ではないのだということを強く実感した。

たくさんの青春の楽しみを失った悲しさや悔しさはもちろん消えていないが、このように、それと同じくらい大切なことを得た 3 ヶ月だった。例年と違うからこそ得られるものをたくさん得て成長した私達だからこそ、慣れない環境の中でも高 2 生活を充実させられると思う。



高 2B Y.Y

私は、この 3 ヶ月で日頃から何事にも感謝しようという気持ちを持つようになりました。休校になってから、家族と過ごす時間が増えて、今回初めて父が働いている姿を間近で見ました。毎日毎日、色々な人と電話をして、会議をして、常にパソコンや書類と向き合って働いている姿に、働いて学費を稼いでくれているから学校に通えるのだ、と私はハッとしました。普段、そんなことを考えて生活を送ることができていなかったのも、急に申し訳なくなくなりまし

た。毎日を何となく生きているから当たり前のありがたさに気づけなかったのだ、と父の姿を見て思いました。今回のコロナの前までは、こんな状況にまさか自分がおかれるとは思ってもみなくて、友達と会えるのも、遊べるのも、学校に行けるのも、部活ができるのも、行事があるのも、毎日、毎年、同じようにやってきているからてっきり当たり前のことだと思っていました。当たり前だと思っていたことが、当たり前ではなくなって、初めて、「どれだけ自分が恵まれた環境にいるのか」「何とも思っていなかった毎日が幸せなものなのか」と、そのありがたさに気づきました。何かを失ってから気付くのは情けないとは思いますが、それでもありがたさに気がつけて良かったです。この気持ちを学校が再開しても忘れないようにしたいです。

高2C H.R

私がこの3ヶ月で気持ちの持ちようでどんなシチュエーションであっても楽しむことも、辛いと思うこともできると感じた。私はアメリカに3月の終わりまで留学していて、帰ってきた直後はコロナの影響で早期帰国になったことに対してやり場のない怒りや悔しさを持っていて何をやるにも手に付かなかった。しかしニュースなどでお店が苦しんでいたり、多くの人がコロナに感染して苦しんでいるということを知り、無事に帰ってこれただけでも本当に幸せなことだと気づくことが出来た。また、ホストファミリーがとても恋しくなったりアメリカに帰りたくて仕方がない時もあったが、それほどまで恋しく思える環境にいた私は本当に幸せだと思った。その後から、もちろんどうしてもモチベーションが上がらないことも多くあったが、気持ちを切り替えて行動することができるようになった。

この3ヶ月から学んだこととは少しずれるが、この3ヶ月のうちあった、または起こっていることから気付くことが出来たことも沢山あった。5月23日にプロレスラーの木村花さんがSNS上での誹謗中傷を受け亡くなってしまった。SNSのような間接的なツールを使って送り主がわからない状態で相手を傷つける言葉を言うことは本当に卑怯なことだと思う。正直、SNSという匿名でなんでもいうことができる世界で、アンチコメントと言われるようなことを言う人はいなくなることは無いと思う。しかし、自殺をしてしまう人がとても多いこの世の中で私に何ができるかと考えた時、たとえSNSは使っていなくとも周りに見えない形で何かに苦しんでいる、悩んでいる人が周りにいないかどうか気を配ったり、また学校などのコミュニティの中で、自分が他の人には言えずとも、何かに苦しんでいる人の気持ちを明るく出来てここにいたら、安心できると思ってもらえるような人間になるよう、努力することが私たちに出来る唯一の事だと思った。また意図していなくても、自分の言葉で誰かを傷付けてしまっていることが無いように気を配っていきたいと思う。

二つ目は、今アメリカで起こっている黒人差別への抗議デモから学んだことである。5月25日に一人の白人警察官が黒人であるGeorge Floydさんの首の上に約9分間膝でのり窒息死させたという事件の動画を撮られ、それがSNS上で拡散され多くの人がそれに対して反発しこのような大規模なデモは始まった。しかしこの事件は黒人差別の問題のほんの一部であ

る。このデモがきっかけで黒人差別についての情報を集めてみると、今までに何人もの人が黒人だからと言う理由で白人警察になんの抵抗もしていないのに暴行されたり殺されたりしている事例があり、その度にその白人警察はなんの罪も問われずそのまま仕事を続けていた事を知った。最近の海外ドラマなどを見ると、Diversity が意識され学園ドラマでも白人、黒人、アジア人、ヒスパニックなど様々な人種の人々が仲良く生活している映像を見ることが多く、正直私はこのデモまで黒人差別について、昔はひどかったけど今は大丈夫なんだろうと思っていた。しかし、今でも彼らに対しての差別は酷く、まだ小学生に入ったくらいの子供が、どんな時でも抵抗したそぶりを見せないようにと警察に取り調べられた時の対応を親に教えられたりする。肌の色が違うだけで標的にされ殺されてしまうのでは無いかと言う不安をいつも持っている。私はこれらの事を知り、何か私自身も行動しなければならないと感じた。しかし日本にいる学生の自分にできることはもちろん限られている。友人とも話し、アルバイトもしていない私たちが親のお金を使って募金することも少し違うと考えた。なぜなら世界には黒人差別以外にも寄付が必要な場所は無数にあるからだ。そして結論として自分達に出来る、すべき事は、まず知ること。そして自分達に身近なコミュニティを変えていくことだ。無知というのは本当に怖く、知らないとそれについて考えることも問題意識を持つ事も行動する事もできない。だから色々な所にアンテナを張って限られたテレビなどのメディアで知るだけでなく自らインターネットや本などを使って調べることが重要だと考えた。そして、今回の黒人差別に対して自分達に出来ることは、全ての人にリスペクトを持って接することであると思う。人種、セクシャリティー、障がい、人格、容姿など、それら全てはその人の個性であってお互いに認め合うべきもので、もし世界中の人が全ての人に対してリスペクトを持って接すれば戦争や差別など起こることはない。だから一人一人がそういう意識を持って生活すれば少しずつでも世界は良い方向に変わるのでは無いかと考えた。



高2D T.M

私がこの3ヶ月間の日々から得たことは、「責任を持って行動することの重要性」「固定概念にとらわれないこと」「当たり前の日々の大切さ」の3つである。

1つ目の「責任を持って行動することの重要性」では、生活面・学習面のどちらにおいても学ぶことが多かった。生活面では、「外出自粛をすることはもちろんのこと、コロナに感染しないように責任を持って行動することが、自分の命、そして大切な人の命を守ることにつながるということ。」学習面では、「オンライン授業という慣れない環境の中でどのような姿勢で学習に向き合うべきなのか。」このようなことをよく考えることができた。このことはこれから社会に出ていく上でとても大切なことだと思うので、肝に銘じていきたい。

2つ目は「固定概念にとらわれないこと」。コロナ禍での生活というのは前例にないものであったので、不安な日々が続いた。情報化社会では多くの情報が飛び交っていて、時には何が正

しいのすらわからなくなるときもある。そんな中でも固定概念にとらわれすぎて、何事も自分のものさしで測ってみるのではなく、物事を柔軟に考えて、いろんな人の価値観を受け入れることが大切であるということも学んだ。

3つ目の「当たり前の日々の大切さ」は、当たり前の日々にもっと感謝すべきだということを見せてくれた。コロナが流行する前は、毎日学校に行ったり、友達とお話したり、部活をしたりできる毎日を当たり前だと思いすぎてしまって、その有難みを失いかけていた。その当たりの毎日は、一瞬で消えてしまう。友達、家族など大切な人と過ごせる毎日はかけがえのないものであり、そんな日々を過ごせることに感謝すべきであるということも学んだ。そして、一日をもっと大切に生きていこうとも思った。

この3ヶ月間で失うものは多く、悲しい気持ちになることも多かったけれど、何事も前向きに考えることで学ぶことも多くなった。これからの人生でも今回得たことを活かしていきたいと思う。また生きていけることや支えてもらっている周りの人への感謝も忘れずに、毎日を大切に生きていきたい。

高2F NS

この3ヶ月間は、休校でしたが今までで一番濃い3ヶ月間でした。普段は忙しくて立ち止まって考えることが少ないですが、じっくり自分の人生や将来、世界について考えられました。

まず、人のためになりたい、というのを感じました。口で言うのは簡単で軽く受け止められるかもしれませんが、本当に思いました。私は恵まれた環境にある以上、世界に恩返ししないといけない、そう強く感じました。今までは正直、恥ずかしながら「お金持ちになりたい」などの皮相な願いを将来にのせたりしていました。しかし、ニュースでアフリカの国々がコロナに直面している状況をみたのをきっかけに、自分の浅薄さに気づき、世界の現状をいろいろ調べてみました。いままでもなんとなくは知ってはいたもののあまり深く考えてこなかった問題や現実が見えてきて、自分の人生の意義は恩返しをすることだと思いました。なので、私は将来、困っている人たちが豊かな生活を送れるような、また、先進国などでもみんなが「幸せ」を感じながら生きていける世の中を作りたいと思いました。これと建築家になるという夢を掛け合わせて、家や環境といった、人を大きく影響するもので世界全体にアプローチして笑顔の溢れる世の中を作っていきたいです。

また、自分の幸せも追求することが大切だと思いました。世界を笑顔にするには、まず自分が幸せであることが必要だからです。そのためには、自分の視野を広げることが大事だと思いました。学校に通って同じような集団で過ごしていると、どうしても流れに身を任せてしまい、影響を受けてしまって、視野が狭くなっていたことに気付かされました。もちろん将来について考えることはこれまでもありましたが、どこか環境に影響されていました。しかし、一人で長いこと考えたり、世界中の様々な人の意見や経験談などを読んだりする中で、自分の可能性を最も広げられる環境は必ずしも日本国内とは限らない、今の環境とは限らないと感じました。子供の頃の写真やビデオを観る、というのにハマっていたのですが、それをきっかけに

人生を振り返ると一番自分らしく過ごせていて、環境がフィットしていたのが海外にいた頃だったことに気づきました。みんながお互いに優しく、心の広い人たちばかりだったのが大きな原因だと思います。引っ越して8年近くたった今でも、私がどんなに失敗しても受け入れてくれる、と思えるのはその人たち、その社会です。その優しさを思い出すだけで、涙がでるくらいでした。今までは日本の不満ばかり言いながら国内で将来過ごすつもりでしたが、この社会の素晴らしさを思い出すと、もっと世界には自分の追い求めている社会があるのではないか、と思い、「世界進出成功！」ではなくて自分の幸せを追求するためにもっと視野を広げる大切さを身にしみて感じました。

このように、この3ヶ月は私に人生の指針を示してくれました。私は、視野を広げて幸せを追い求めるだけに留まらず、自分もその恩返しとして、誰かの帰ってこれる場所を作ることによって優しさの連鎖を巻き起こし、幸せな世の中をつくりたいです。